

原文 1

嗟乎吾兒已矣、哀哉、初吾之有_レ兒也、專望_二其晚成、而不_レ復責_二其近效、是故居恒不_レ敢輒課以_二書札詩句等_一也、曩者汝之奔_レ姉喪於國屋氏_一也、予亦隨往焉、於_レ時喪事忽劇、舉室鞅掌、尸側或無人、獨見_レ汝之坐_二姉枕上_一、潛然涕泣、予視焉竊喜、其稍近_二沉實、而友愛之情厚_一矣、

読み

嗟乎吾兒已_{やむ}かな、哀しいかな、初めて吾の兒有り、専ら其の晩成を望み、復其の近效を責め_ず、是れ故_へ居_{キヨコウ} 恒敢えて_{すなわ} 輒ち課するに書札詩句等を以てせず、曩_{さきに}者汝の姉の喪に國屋氏に奔_るなり、予も亦た隨_ついて往くかな、時に喪事は忽_{こつげき} 劇となり、舉室鞅_{おうしやう} 掌、尸側は或は人無し、獨り汝の姉の枕_{ちんじよう} 上に坐し、潛然涕泣するを見る、予視て、竊かに其の稍_{やちんじつ} 沉實に近く、友愛の情厚きを喜ぶ。

訳文

ああ、私の子が亡くなってしまった。哀しいことだ。私の初めての男の子だった。もっぱらその晩成を望んで、早くからその成果を求めるとはなかった。だから、普段は敢えて書くことをしたり、詩句を果たすことはなかった。先に、おまえの姉の葬儀に國屋氏に行つたことがある。私もまた一緒にいった。そのうち葬儀は、忙しくなり、部屋中あわただしくなり、亡くなった姉のそばには、時には人がいなくなつたりした。一人おまえの姉の枕元に座り、ひそかに泣いているのを見た。私はそれを見て、そんな時でも、落ち着いているようで、人の事を思う情の深いのを秘かに喜んだものだ。

語句

兒_二男の子_一 已_二やむ_一、終わる 已_二矣_一 已_二ヤンナルカナ_一 もうどうしようもない
書_二書経_一 書札_二書き付け_一、手紙 近效 責_二せめる_一 しきりに要求する
居恒_二キヨコウ_一 つね ふだん 輒_二スナワチ曩者_一 ドウシヤ サキニ 先ごろ
忽_二コツ_一 たちまち 劇_二ゲキ_一 はげしい 於_レ時 鞅掌_二オウシヨウ_一 手に
いっばい仕事を引き受けて忙しいさま
尸_二シ_一 シカバネ 潜_二ひそかに_一 稍_二やや_一 沉_二沈_一の異体字